［がんばる工繊大生｜Active KIT students］

博士学生に聞く、博士後期課程の魅力

社会が求める高度専門人材を育むため、博士学生の支援に力を入れている本学。今まさに博士後期課程で研究にまい進する小澤桂介さん（電子システム工学専攻D1）、岡本晋さん（デザイン学専攻D2）、水谷仁美さん（物質・材料化学専攻D3）にリアルな声を伺いました。

Fig.1――「博士キャリアメッセKYOTO 2023」の様子

Fig.2――左から小澤さん、岡本さん、水谷さん

――博士後期課程に進学した理由を教えてください。

小澤 私は光エンジニアリングの研究室に所属し、光通信用デバイスの研究開発に取り組んでいます。研究室にドクターの先輩が2人いたので、博士後期課程に進学するハードルは高く感じませんでした。第一線で活躍するプロフェッショナルに魅力を感じ、進学を決めました。

岡本「行政とデザイン」というテーマで、デザインのアプローチをどのように行政に応用するかを考えています。学部と博士前期課程で研究に取り組む中で、自分の探究したい領域がだんだん定まっていき、よりチャレンジングな研究に挑戦したいと考えるようになりました。そんな時に現在の指導教員である水野大二郎先生と出会い、それが博士後期課程に進む決め手になりました。

水谷 昔から研究者に憧れがあり、入学当初から博士後期課程を意識していました。そして博士前期課程で新たに研究したいテーマが見つかり、その研究を続けるために進学しました。今は電子デバイス等への応用を目指して、金属ナノ構造体の作製法やその加工について研究しています。

――皆さんが申請・利用された「京都産学共創人材育成フェローシッププログラム」について教えてください。

小澤 フェローシップに採択されると、研究費と生活費の支援が受けられます。経済面の安心が得られるのは大きいですね。

岡本 支援の有無でやりたい研究内容が変わるわけではありませんが、費用を心配せずに遠方（私の場合はブラジルなど）の学会に参加できたことで活動の自由度は大幅に上がったと感じます。経済面以外の支援では、博士の学位を持った企業出身の教員から定期的に助言をもらえるメンタリング制度もあります。

小澤 私の場合は、キャリア形成のための自己分析について助言をいただいています。研究に集中していると就職活動を忘れがちなので、とても助かります。

水谷 博士学生の就職活動については、そもそも世の中に情報があまり出回っていません。そうした情報を探す際にも、メンターの方によるサポートが役立ちました。

岡本 メンターの方は技術者で、デザイン系の私とは分野がまったく違うからこそ、新鮮なお話を聞くことができます。日々の悩みを相談することもあれば、研究者としての生き方について話を伺うこともあります。

小澤 フェローシップに採択された学生は、キャリア支援の一環としてキャリアフォーラムにも参加します。私たちは京都クオリアフォーラムが主催する「博士キャリアメッセKYOTO」に参加しました。

水谷 このイベントではさまざまな企業・団体に勤める社会人博士のお話を聞き、博士の専門性を生かした仕事内容を知ることができました。博士後期課程の修了後は、ここで出会った公設試験研究機関のある地方自治体への就職が内定しています。私にとっては、キャリア選択を左右するとても重要なイベントでした。

小澤 社会人だけではなく、学生によるショートプレゼン発表もあります。私はうれしいことに企業賞を受賞し、企業の方に顔を覚えていただけました。就職活動でも大きなアピールポイントになると考えています。

岡本 私も企業賞を受賞しました。電子部品メーカーの方に行政サービスの研究を評価してもらえたのが意外でしたが、研究の社会性を再認識するよい機会になりました。

――最後に、博士後期課程への進学を検討している後輩に向けてメッセージをお願いします。

小澤 フェローシップ等を活用すれば、経済面の心配をせず、専門スキルを磨くことに専念できます。安心して進学してください。

岡本 若いうちに、本当にやりたい研究に没頭することには大きな価値があります。「いつかは博士後期課程に」と考えている修士の方がいれば、一度博士進学について周囲に相談してみることをおすすめします。

水谷 博士号取得者の活躍の場はたくさんあり、就職はどうとでもなります。研究に興味があるのなら、ぜひ迷わずに進んでみてほしいと思います。

社会との接続を意識しながら
強い探究心を持って研究に取り組む。